

令和2年11月27日に岩手県洋野町と気仙沼市が行っている「海洋教育こどもサミット」がオンラインで行われました。唐桑小学校の代表として地域の川について探究し、まとめた発表を掲載します。

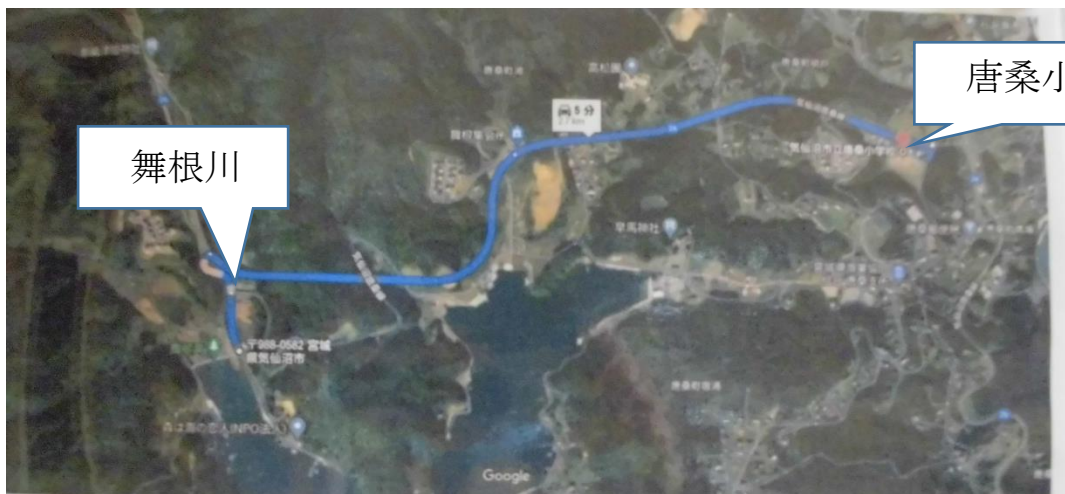
再発見「僕たちの舞根川」

代表：小野寺真波 岩間成美 鈴木昊将

僕たちの住んでいる地域に舞根川という川があります。

名前は知っていたけど知らない川です。新聞で舞根川が作り直されているという記事を見てどうして作り直されているか気になりました。名前は知っていたけど知らない川、舞根川をもっとよく知りたいと思いこのテーマを決めました。

「舞根川の位置」



東舞根川では生き物調査、西舞根川では護岸見学をしました。

この二つの川の水源である舞根峠の山の土には、フルボ酸鉄がたくさん含まれており、雨で流れ、川や海にたどり着くと植物プランクトンの栄養になります。これは、食物連鎖のはじめです。フルボ酸鉄が多ければ多いほど下流や海は栄養が豊富になり、たくさんの生き物が住めると思いました。

「舞根川護岸」

舞根川は、2度護岸工事をしています。

古い護岸は昭和40年～50年にすき間が無いように作られていました。今回はそれを改良工事しました。

《すき間のない古い護岸》



《改修されている新しい護岸》 すき間をたくさん作って生き物が住めるようにしています。



「生き物調査の様子 (H2. 8. 28)」



宮城教育大学の棟方先生といっしょに舞根川の生き物調査をしました。



こんなにたくさん生き物がいました！！





「舞根川上流の持ちょう」



写真のように石や岩があり、細く流れている川で、木や草がたくさん生えています。フルボ酸鉄がたくさんありそうな、フカフカの腐葉土が下に積もっていました。

この事から、舞根川は上流に豊かな森林を持っているから生き物の種類がたくさんあるのだと実感しました。

「舞根川への思い」

舞根川に対して、僕は小さくて目立たない川だと思っていたけれど、実際に調べてみると、これまでに学んだ「森・川・海のつながり」や「栄養のサイクル」などのことをこの川の姿から見つけることができました。

冷たくてきれいな川の水からは、目に見えないけれどフルボ酸鉄がたくさん流れていて、そこにいる生き物を育てていると、実感しました。

皆さんの住んでいる地域に舞根川のような川はありませんか。社会科の授業で習ったような日本の地形から考えると、日本全国各地に舞根川のように短い川があるでしょう。今、舞根川で行われている「護岸を作り直す」という事例は全国でも数少ないそうです。他の川でも舞根川のように、工夫をすることができたらよいと思います。



舞根川の近くに住む畠山重篤さんは、「森は海の恋人」というスローガンで植樹活動などに取り組んでいます。また、重篤さんの息子さんの信さんは、「森里海研究所」で海・川・山の環境を守る活動をしています。

また、僕たちが生き物調査や護岸見学などをしたときにもお世話になりました。信さんはどうして僕たちにたくさんのことを教えてくれたのか考えました。それは、僕たちに舞根川のすばらしさを知ってもらい、ゴミを減らしたい、川をきれいにしたいなどと思ってもらうことで、舞根川を守ろうと考えているからではないでしょうか。

重篤さんから信さんが、**信さんから僕たちが舞根川を守りたいという思いを受け止めることでその思いを繋ぐことができる**と思いました。

この思いを受け止めた僕たちは舞根川のすばらしさを他の人たちに発信していきます。